

編集後記にかえて

大井 健 地

本号掲載論文中、相澤、伊藤、大山、加藤、四氏の論文は、本研究会大会に於ける口頭発表に基づくものである。

編集委員

青木 孝夫・大井 健地・大橋 啓一
香川不苦三・金田 晉・倉橋 清方
因府寺 司・齋藤 稔・幣原 映智
高木 茂登・八田 典子・水田 一征
出原 均

広島での美学会に続いて、岡山での美術史学会に参加した。ルネサンスの大芸術についての発表はみあたらなかったが、「愚者の変容」と題された保井亜弓氏の「15世紀における初期版画と写本芸術の関連」の研究は、小気味よく、まとまっていて啓発をうけた。愚者は「愚行のパン」を喰う。三角帽子をかぶる。唇に指をあてる。「彼らは物食うようにしてわが民をくらい、また主を呼ぶことをしない」(詩編14-4)。アルチャーティの『エンブレマータ』なる古書によれば「愚か者は、沈黙すれば賢者といささかも変わるころはない。その舌と声が愚しさの徴である」という。背理めくが、そしてみなさん御迷惑をかけますが、ここで僕はもの申す。発言し発表し、喚ぎ続けねばならない。自己の愚かしさに気づくためにだ。「沈黙」の「賢者」で世界は満タン、それこそが「愚者の楽園」を熟成させているのではないか。

おだやかな口調でしかし内容はムチャ刺激的だった木下直之氏の「新出・由一〈甲冑図〉報告をはじめ、日本油彩画研究が3本も並んだことはこのエリアの小研究者になりおおせたい愚生にはうれしいことだった。当地広島には錦吉郎、千古、蕉造、鬘光をはじめ光をあてるべき画人があまた。造形活動にいそしむ人々を含め美術研究者のみなさん、発表、発表。賢か愚か、吟味、吟味。感想のお手紙をアノ発言者、コノ発表者に出してあげてよ。さすれば彼の自省の鏡は更に澄む。その鏡の光、この愚か者の覚醒をも促すこと必定。

(おおい・けんじ 広島県立美術館)

藝術研究

第四号

頒価一五〇〇円

平成三年七月十九日 印刷
平成三年七月二十日 発行

編集 広島芸術学研究会年報編集委員会

発行 広島芸術学研究会

〒730 広島市中区東千田町一―一八九
広島大学総合科学部比較文化研究室気付

TEL 〇八二―二四一―二二二
(内線三六一九〇二四七七)

印刷 力 シ ム ラ 社

〒730 広島市中区国泰寺町二―五―二七
TEL 〇八二―二四六―八〇〇〇